

③ 国の天然記念物 イタセンパラ



イシガイ

淀川のワンドに生息していて、その美しい姿などから“淀川のシンボルフィッシュ”とされているイタセンパラ（タナゴの仲間）は、8~10cmほどの大きさの魚です。多くの種類の魚は春に卵を産みますが、イタセンパラは秋に卵を産みます。9~10月ごろになるとオスはきれいな赤紫色になり、メスはお腹から出ている管を生きた二枚貝（イシガイやドブガイの仲間）の中にさしこみ、50~100個の卵を産みます。卵は4日ほどでふ化し、子どもは貝の中で寒い冬をこして6~7か月を貝の中ですごし、翌年の4~5月に泳ぎ出ます。このように、イタセンパラは生きた二枚貝がないと子孫を残すことができないのです。

昔の淀川のワンドは、イタセンパラにとってたいへん暮らしやすい場所でした。しかし、治水工事などによってワンドが減ったり、環境が変わってしまったり、外来魚に食べられてしまったりして、今では淀川のワンドで見ることがむずかしくなっています。そのため、ワンドの環境をととのえたり、外来魚を減らしたり、親のイタセンパラを放流したりするなど、ふたたびイタセンパラが元気に泳ぐ淀川の環境をめざしてさまざまな活動が進められています。



なぜ、イタセンパラを守ることが大切なのか？

イタセンパラを守ることは、イタセンパラが住むことができる環境をとりもどすことであり、イタセンパラを守ることにより、同じような環境にくらす生き物などをも守ることになります。つまりは、たくさんの生き物を守ることにつながるのです。

④ 淀川にすむ生き物にとっての環境の変化

治水工事により洪水は起こりにくくなりましたが、さまざまな生き物がくらしていたワンドや干潟は減ってしまいました。また、川の流れが1年中おだやかになったことで土砂が流れにくくなり、ワンドの水や底がきれいになる機会も減りました。さらに、そのように変化してしまった環境を好むブラックバスやブルーギルといった外来種の数が増え、もともと淀川にいた生き物が食べられたり、すみかをうばわれたりするという問題が起こっています。

淀川のワンドの変化
(赤川ワンド付近)



豊かな生き物がいたワンド
1972年



道路と公園になったワンド跡地
2016年

④ 大阪市内にすむ外来種の生き物

外来種が入ってきたことにより、これまでの生物多様性が失われてしまっています。もともとその地域にいた生き物の種類や数が減る半面、外来種の種類や数が、近年急激に増えています。

外来種の多くは、食料等として輸入されたものや、船や飛行機で知らないうちに外国から運びこまれたものですが、中には、ペットショップで飼われていたり、家庭で育てていたりした生き物が、人間の手によって、川や公園などに放たれ、すみついてしまったものもいます。

大阪市内にすむ外来種

〔〕内は原産地



えー！こんな動物も住みついているの？



たいていの外来種は、やってきた地域の自然に合わなかったり、限られた地域でしか生活できず、影響は小さいのですが、一部の外来種は、外敵が少ないため、地域の自然にうまく入り込み、仲間をたくさん増やして、もともと大阪にすんでいた生き物をおそったり、すみかやえさをうばったりするものもいます。これまでの生物多様性を守るために、さまざまな生き物を保護し、ともに生きていかなければなりません。

外来種を駆除するというのも自然を守るための一つの方法ですが、大切なことは、問題を引き起こす、またその可能性がある外来種を入れないようにすることです。ペットとして飼育や栽培をしている外来種を、自然の中にもやみに放さないことも、大切です。

外来種の水草（外来水草）がふえると…

近年、淀川をはじめ、都市部の川やため池では外来水草の繁茂（おい茂ること）が大きな問題になっています。外来水草が繁茂すると水の中では何が起こるのでしょうか。大型の水草が水面をおおうと、まず、水の中には光が届かなくなり、他の水草はいなくなります。また、水にとけている酸素が少なくなり、魚もすみづらくなります。



外来水草（ボタンウキクサ）がいるとき、いないときの模型展示（自然史博物館）

悪いのは外来種かな?
かんきょう
こういう環境にしてしまった
げんしん
原因はどこにあるのだろう?
これからぼくたちはどうして
いくのがよいのかな?



淀川での外来水草駆除のようす

もともとその地域にす
んでいた生き物たちを
外来種から守る活動が
行われているんだね。



⑤ 現在行われている自然を守るための活動

1940年代には淀川の左右両岸に干潟が連なり、干潟の面積は約180ヘクタールあったとされています。ところが1998年には約50ヘクタールに減少しました。その原因是、河川改修による影響のほか、今から50～80年ほど前にたくさんの地下水をくみ上げたことによって急に進んだ地盤沈下によるものと考えられています。

現在、ワンドや干潟を再生する取り組みが行われています。干潟の面積を元にもどすことを目標にして、柴島、海老江、大淀など可能な所から干潟の再生事業が進められています。また、2008年3月に51個あったワンドを、およそ10年間で90個以上にするワンド倍増計画が進められていて、たくさんの生き物がすむことができる環境づくりに取り組んでいます。

ほかにも、淀川でのごみ拾いや、カニをはじめとしたさまざまな生き物のすみかとなる干潟のそうじなどにみんなが協力して取り組んでいます。



くにじま
柴島再生干潟



くにじま
柴島再生干潟でのシジミ掘りのようす

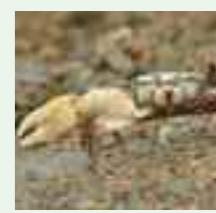


くにじま
赤川再生ワンドの調査のようす



くにじま
淀川でのごみ拾い活動

ひがた
干潟にすむ生き物



P.14の「調べ学習
の手助けページ」を
使って、どのような
生き物がいるか実際
に調べてみよう！



？ 環境を守るために、わたしたちにできることは何だろう？

わたしたちの暮らしは、世界中の生き物からもたらされるめぐみによって支えられています。しかし、わたしたち人間の活動が原因で、多くの生き物が絶滅の危機にさらされています。

生物多様性がもたらすめぐみをこれからもずっと受けられるようにするために、わたしたち一人ひとりができるることを考えて行動することが必要です。

調べ学習の手助けページ

● 自然史博物館

P.49 環境学習施設マップ④



● 環境省 全国水生生物調査のページ

ホームページ [https://water-pub.env.go.jp/
water-pub/mizu-site/mizu/suisei/](https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/)

● 淀川河川事務所

ホームページ <https://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/index.html>



● 長居植物園

P.49 環境学習施設マップ⑨



● 咲くやこの花館

P.49 環境学習施設マップ⑧

● 自然体験観察園

P.49 環境学習施設マップ⑩



● 環境省自然環境局ホームページ

日本の外来種対策 外来種問題を考える

ホームページ [https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/
index.html](https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/index.html)

